

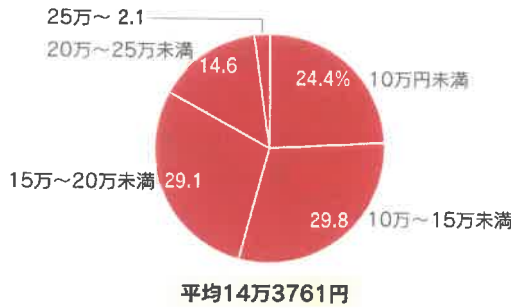
M&I 生活設計と資産運用

もっと深く

人生100年 お金の知恵

千葉県に住む男性会社員Aさん(59)は老後に不安を覚えていた。昨年話題となった「老後資金2000万円問題」がいまも気になるからだ。60歳の定年後も少なくとも65歳まで働き続けるつもりだが、「完全にリタイアした後の年金はいくらになるだろうかと話す。老後資金を支える公的年金は国民年金に10年以上加入す

厚生年金受給権者の月額別内訳(基礎年金含む)



(注)厚生労働省「厚生年金保険・国民年金事業の概況」(2018年度)を基に作成。受給権者は会社員で、厚生年金の報酬比例部分のみの人を含む

公的年金受給額の目安は？

基礎年金	
78万1700円(※1)	× $\frac{\text{保険料の納付(予定)月数}}{480\text{カ月}(=40\text{年})}$
厚生年金	
平均月収(※2) ()円	× 0.005481 × $\frac{\text{勤務(予定)月数}}{\text{()カ月}}$

(注)※1は保険料を40年間納めた場合に受け取れる満額(2020年度)。※2は貰う含む月額換算の「平均標準報酬額」

定年後勤務年金受給額は

と受け取れる老齢基礎年金と、会社員など厚生年金に加入した人が受け取れる老齢厚生年金がある。厚生労働省の調査によると、厚生年金を受

け取る権利のある人の平均月額額は2018年度で14万3761円(基礎年金を含む)。

61円(基礎年金を含む)。

自営業者など国民年金のみの加入者の平均月額額は5万418円だ。基礎年金は40年加入で満額を受け取れ、加入期間が満たない分は少なくなる。

Aさんのように60歳以降も厚生年金に加入して働く人

定期便やネットで試算

金はいくらになるのか。掛かりとなるのは公的年金の加入者の誕生日に毎年届く「ねんきん定期便」だ。50歳以上の人の定期便には収入などの労働条件が現在のまま60歳まで加入したとき、65歳から受け取る見込み額が基本的に掲載されている。

厚生年金の大きな目安は「平均月収×0.005481×勤務(予定)月数」で試算できる。60歳以降も働く場合の収入や勤務期間の見込みを当てはめれば上乗せ額が分かるので、定期便の見込み額と合算するといいたい。60歳~65歳未満の人の定期便には作成時点までの加入実績に基づいて65歳の見込み額が掲載されている。

定期便が届くのは年1回だが日本年金機構のサイト「ねんきんネット」でも見込み額を知ることができる。現在と同じ労働条件で60歳まで加入した場合の見込み額のほか、

ねんきん定期便やねんきんネットで分かる年金額は見込み額であることに注意が必要だ。実際に受け取る額は世帯の状況によって異なるからだ。例えば「加給年金」。年下の配偶者など加入者に生計を維持されている人がいる場合に一定の条件を満たすと厚生年金に加算されるが、定期便に載っていない。

加給年金は配偶者が対象なら年約39万円が上乗せされる。特定社会保険労務士の東海林正昭氏は「より正確な受給額を確認したい場合は、年金事務所に相談するのが一案」と助言する。

ポイント 詳細は年金事務所に確認

収入や勤務期間の変化、希望する年金受給開始年齢といった詳細な条件に基づく金額も試算できる。

利用するには、ねんきんネットへの登録が必要。登録の際は年金手帳などに記載されている基礎年金番号を入力する。会社員は勤務先が年金手帳を管理している場合が多いので問い合わせよう。ユーザーIDの取得も必要で、ねんきんネットで申請すると

郵送される。定期便に記載しているアクセスキーを使えばネット上で取得できるが、アクセスキーの有効期間は定期便到着から3カ月以内だ。

定期便もねんきんネットも一長一短はあるが、まずは試算してみることが大切だ。フアイナンシャルプランナーの前田菜緒氏は「年金額の目安を知ることは老後のライフプランを考える第一歩」と指摘している。

(藤井良憲)